

日中英対訳論語【第56号】

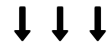
孔子 (Confucius) の「論語 (Rongo)」中の有名な句を、日本語・中国語 (原文)・英語の対訳にてIECよりお届けしております、日中英対訳論語シリーズも第50号に突入しました！全120号の約半分に達しようというところですが、IEC編集部 (久井) の【気ままな連想】も好評で、毎回たくさんのコメントを頂いております。全120号まで毎週お届けしてまいりますので、今後とも愛読のほど宜しく申し上げます。お読み頂いた方は、ぜひコメントを左記メールまでお寄せ下さいますようお願い申し上げます。なお、過去の日中英対訳論語は、IECのホームページにてご覧になれます。

バックナンバーはこちらから↓

URL: <http://www.ieconsultants.co.jp>



ご意見・ご感想は
こちらまで



culture@ieconsultants.co.jp

日本語

・民はこれに由 (よ) らしむべし、これを知らしむべからず

現代語訳

・『民は信頼させることはできるが、その内容を分からせることはできない。』

教訓

・だから懇切丁寧に語らなければならない。

中国語

・民可使由之、不可使知之 (泰伯第八 9)

英語

・You can make people trust you, but it is very difficult to make people understand the background thereof.

【気ままな連想】

- ① この言葉ほど曲げて使われてきたものはない。封建制下、「領民は権威に服せしめるべきで、理由などを知らせる必要はない」の意とされてきたが、真意は、「民は徳を以て信頼させることはできても、すべての民にそれを分からせるのは難しい」である。

近年耳にする「説明責任」は、accountabilityの訳。それに到達できる (account) ようにとの見通しと狙いのもと尽くされるべきものでなければならない。最小限度で開示すれば足りるとか、釈明すれば足りるというものではないはず。

- ② 「知らしむべからず」は、知らせるべきではない、の意味ではない。民に向かってそんな程度の語りかけでは、とても知ってもらうことはできない、の意味だ。どこまでも誠意を尽くして分かってもらうまで、とことん語り尽くそうという、へりくだった姿勢をいうものだ。

日蓮上人は、比叡山や奈良で修行した結果、法華経こそが唯一絶対の教えだと悟り、やがて故郷安房の小湊に帰ってから鎌倉に出る。建長五年 (1253)、三十二歳で、鎌倉の辻々に立ち、いわゆる辻説法を始める。地震、台風、治安の乱は、邪宗をあがめるが故なりと説く。以来この辻説法のせいで数々の法難に出会うが、この熱心さにうたれて、民衆が理解をするようになり、信者が急拡大する。

近年の政党マニフェストに、「とことん」の姿勢があるか？

クルツアカデミー
英語塾 KÜLZ ACADEMY

2-12-12-604 Shin-Yokohama, Kohoku-ku,
Yokohama city, Kanagawa 〒222-0033
TEL: 045-308-6280 FAX: 045-308-6281
URL: <http://www.ieconsultants.co.jp>



「筆写・音読のすすめ 論語手習張 百二十選」

皆さんの声にお応えし、写経ならぬ、写「論」ができる手習張・ワークブックがついに完成し、発売されました！
以下のURLにてお買い求めいただけます。

<http://shop.plaza.rakuten.co.jp/wakuwakutown/>